

バヌアツ共和国における非感染性疾患に対する健康認識の予備調査

医学研究科 専門職学位課程 1年

浅見 有香

バヌアツ

2020年2月14日～2020年3月3日

計画の概要

バヌアツ共和国は人口約27万人であり、83の島から構成される。1990年には47%だった非感染性疾患（Non Communicable Diseases :NCDs）による死因割合がWHO発表資料にて2015年には74%に急増した¹。バヌアツ共和国における手術の約70%はVila Central Hospitalで施行される。Vila Central Hospitalにおける切断手術は2012年の42件から2017年の104件と増加傾向であり、切断の理由の9割以上は糖尿病性壊死であるため、NCDs対策を拡大していく必要があるといえる。しかしながら、バヌアツ共和国における非感染性疾患に関するデータや先行論文は非常に限定的である。

本渡航の目的

①農村部在住者と首都在住者に対してインタビューとアンケートを行うことで非感染性疾患の特に糖尿病に関する知識や生活習慣や行動変容に至る阻害要因と促進要因に関する示唆を得ること、②調査協力者の選定をすること、③将来質的調査可能な地域を特定することである。

成果

Shefa州Efate島Port Vila市、Paunagisu村、Nguna島Taloa村で予備調査と研究協力者を得た。概ね当初の計画通り実施し、予備アンケート/インタビュー調査、研究主旨の理解と現地協力者の確保、本調査に向けた倫理申請など関係機関での手続きの確認、本調査に向けた調査地の特定を行うことができた。

現地の専門職や関連機関の承認

保健省大臣代理や保健省NCD課前課長、保健省大臣秘書、バヌアツWHO医系技官、Vila Central Hospital院長代理、同病院NCD課師長や各スタッフ、バヌアツ看護協会前会長、地方クリニック所属の看護師、Nguna島Taloa村長、バヌアツ看護学校校長、バヌアツ看護学校教育長代理と面談を行った。バヌアツのNCDsの現状共有、先行文献との相違や同一点の確認などの情報収集とともに、研究主旨説明と研究協力の同意と承認を得た。また、バヌ

アツで行われている NCDs 担当者の診察時の対応や診察時間、患者の受診から受診終了までの動き方、保健省と Vila Central Hospital、地方クリニックそれぞれの生活習慣病患者の登録方法、往診時の医療スタッフのアセスメント内容を確認した。

アンケート/インタビュー調査

NCD (生活習慣病) 課スタッフ 5 名、Nguna 島 Taloa 村住民 (20 代～60 代の女性 24 名)、Efate 島 Paunagisu 村住民 (男性 2 名、女性 3 名)、Port Vila 市住民 (2 名)、NCD クリニック課外来患者 (高血圧症と糖尿病に対して通院治療の男性 2 名、女性 2 名。うち 3 名は糖尿病性壊死に伴う切断経験があり、1 名は脳卒中エピソードあり)、から成るインタビュー協力者である。主な調査項目は、健康に気を付けていること、受診行動、NCD について、普段の生活習慣、健康や病気に関する情報収集場所 (COVID-19 と NCDs について)、主観的健康観を調査した。加えて生活習慣病患者に対してはインタビュー当日に測定した自身の体重や血圧、血糖値、内服薬の確認、ライフヒストリー、食事療法や運動療法、薬物療法の実践状況、家族とのかかわりの変化を追加調査した。自身の体重や血圧、血糖値を回答できるものはほとんどおらず、内服治療は多くの患者で継続できていなかった。バヌアツでは受診が 3 か月に 1 回であっても薬の安定供給のために内服薬は 3 か月分処方されない事情を始め、様々な事情を知ることができた。また、適宜現地スタッフと協力しながらビスラマ語のワーディングやインタビュー項目の修正などを行った。

NCD 課職員と患者それぞれからインタビューすることで、医療者と患者の認識に大きなギャップや地理的/認識的/文化的などの側面から治療継続に関する困難があることがわかった。各調査で得たデータを分析し、本調査で利用する調査手法や研究対象者を再検討していく。



写真1 地方クリニック看護師と面談後の談笑



写真2 看護学校教員とアンケート調査項目の修正

参考 [1]https://www.who.int/nmh/countries/vut_en.pdf